

報道提供

キジバトの巣～枝を探しに。

| 企画：瀬戸内アートコレクティブ

展覧会期：2021年4月3日(土) - 4月18日(日)

開場時間：11:00-16:30 | 土日は19:00、最終日は15:00まで 入場無料

展覧会場:Share gallery 206 高松市北浜町 4-14 北浜 alley 内 | アクセス

お問い合わせ先：瀬戸内アートコレクティブ

E-mail：info@setocole.com

TEL：090-5054-8039 (片倉)



キ ジ バ ト の 巣

美術科教員作品展

企画：瀬戸内アートコレクティブ

枝を探しに。

藏本秀彦
さとうゆうじ
樋口聡
藤原佳織
三村昌道(五十音順)
香川県立高松工芸高等学校 美術科教員

【会期】
2021.4.3 - 4.18

【場所】
Share gallery 206

【時間】
11:00-16:30 ※土・日は19:00
※最終日は15:00

【観覧料】 無料

【お問い合わせ】 瀬戸内アートコレクティブ
info@setokore.com (片倉)

美術科教員作品展 キジバトの巣

〔会期〕 2021.4.3 - 4.18

〔場所〕 Share gallery 206

〔企画〕 瀬戸内アートコレクティブ

ギャラリーに一歩足を踏み入れると、その空間には外の空気が全て入り込んでいた。光や雨、生き物の営みは作品へ新たなイメージを吹き込んでくれる。ふと窓の外を覗くと、キジバトが巣を作り子育てをしていた。キジバトの雄は何度も何度も同じ場所を訪れて枝を探す。どの枝も同じように思えてしまうが、100メートル以上離れた場所との間を往復していることもある。枝を探しているキジバトは、いかにも“何かを探している”という感じで活発に動きまわりながら木の枝をくわえては放し、品定めをしているようである。雌はその枝を受け取っては積み重ねて粗雑な巣を作る。それは人間からすると雑に見えるが、キジバトには彼らなりの合理性や意味があるのかもしれない。自分にとっては意味のあることでも他人にとっては意味が見出せないということも多い。ふと美術とはそんなものではないかと思いつつも、少しでも思いが届くように私達も素敵な枝を探す。



香川県立高松工芸高等学校 美術科教員

藏本秀彦 さとうゆうじ 樋口 聡 藤原佳織 三村昌道

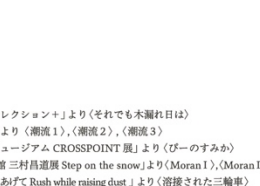
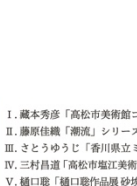
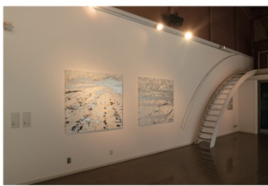
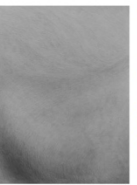
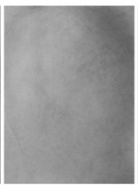
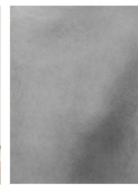
2011年の大震災、その後の突発的な災害や社会の変動、今回のコロナ禍など、予期できない事象のなかで生き、美術に何ができるのかという問いに対して当事者として心に留めておくことを思考し続けている。

1996年ラオス。夫婦で現地のことも遣と絵を描きながら森に住む精霊「びー」の話を書く。小さい頃から恐れと親しみを込めてアニミズム文化を受け入れ、里山と共存する暮らしはとても美しく感じた。

人がこれまでに経験したことのない環境とどう関わるべきか考える装置「溶接された三輪車」を個展「砂埃あげてRush while raising dust!」(高松市美術館 2020)で発表。

具象と抽象の狭間で水も砂も雪原とも言えぬ流れを描く。手のひらの起伏、親指の凹凸、背中の稜線など身体部分をモチーフに、どこまでも続く目に見えない時の流れを視覚化することを目指している。

世界を知覚するための入り口として、美しく儂い雪をモチーフに絵画を制作している。「神山アーティスト・イン・レジデンス 2002」(徳島・神山町)、「三村昌道展 Step on the Snow」(高松市堀江美術館 2020)などで作品を発表。

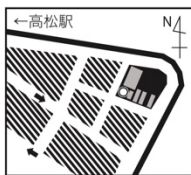


I. 藏本秀彦「高松市美術館コレクション+」より〈それでも木漏れ日は〉
II. 藤原佳織「潮流」シリーズより〈潮流1〉、〈潮流2〉、〈潮流3〉
III. さとうゆうじ「香川県立ミュージアム CROSSPOINT 展」より〈びーのすみか〉
IV. 三村昌道「高松市堀江美術館 三村昌道展 Step on the snow」より〈Moran I〉、〈Moran II〉
V. 樋口聡「樋口聡作品展 砂埃あげて Rush while raising dust!」より〈溶接された三輪車〉

〔アクセス〕

車
高松中央 IC から 県道 43 号線を北へ約 4km、県道 155 号を西へ約 1km、国道 11 号を北へ約 2km、高松港手前を東へ約 600m
高松西 IC から 県道 178 号を北へ約 2km、国道 11 号を東へ約 4km、上天神交差点を北に約 5km、高松港手前を東へ約 600m

電車
JR 高松駅から 東へ徒歩約 7分 / ことん高松築港駅から 東へ徒歩約 5分



206 TSU MA MU

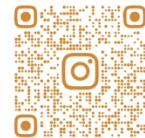
香川県高松市北浜町 4-14北浜 alley 内
Tel : 087-811-5212 206tsumamu@gmail.com

北浜 PARK -KITAHAMA PARK-

ご利用時間：24 時間 / 年中無休 駐車料金：最初の 10 分無料
※ご利用方法・時間につきましては駐車場の案内をご確認ください。
満車時などご利用いただけない場合があります。

作品展「キジバトの巣」
Instagram アカウントはコチラ！

Instagram



KIJIBATO.2021

https://www.instagram.com/kijibato_2021

瀬戸内アートコレクティブは、瀬戸内海を望む築 100 年の倉庫街北浜アリー内の Share gallery206 にて、高松工芸高等学校美術科教員作品展「キジバトの巣」を開催する。

北浜アリーとは、北浜の倉庫街を都市の歴史を語る重要な商業界隈として再生する可能性があると考え、レストラン、カフェ、雑貨やアートに溢れる商業複合施設として2001年改装されたエリアである。

北浜の都市の歴史ある倉庫街のノスタルジーを生かしながリノベーションした手作り感が、人々の気持ちをワクワクさせ、ライブ感覚に満ちた産業空間を形成する。

「失われた時代への郷愁、子供たちに伝えたいヒューマンサイズな生き方」文化的情報の発信が商業施設に付加価値を与えている。

本作品展の出品作家は高松工芸高校で教鞭を取りながらアーティストとして活動している。藏本は、2011年の大震災、その後の突発的な災害や社会の変動、今回のコロナ禍など、予期できない事象のなかで生き、美術に何ができるのかという問いに対して当事者として心に留めておくことを思考し続けている。

さとうゆうじは、1996年ラオス。夫婦で現地のこども達と絵を描きながら森に住む精霊「びー」の話を知る。小さい頃から畏れと親しみを込めてアニミズム文化を受け入れ、里山と共存する暮らしはとても美しく感じている。

樋口は、人がこれまでに経験したことのない環境とどう関わるべきか考える装置「溶接された三輪車」を個展「砂埃あげて Rush while raising dust」(高松市美術館2020)で発表。

藤原は、具象と抽象の狭間で水とも砂とも雪原とも言えぬ流れを描く。手のひらの起伏、親指の凹凸、背中の稜線など身体部分をモチーフに、どこまでも続く目に見えない時の流れを視覚化することを目指している。

三村は、世界を知覚するための入り口として、美しくも儂い雪をモチーフに絵画を制作している。「神山アーティスト・イン・レジデンス2002」(徳島・神山町)、「三村昌道展 Step on the Snow」(高松市塩江美術館2020)などで作品を発表。

(50音順)

高松工芸美術科は1978年に創設された。

美術に関するあらゆる方向を目指し、アーティストやアートに関するスペシャリストの育成を目標にしている。近年では国内外で活躍するアーティストを招聘したり、雑誌Fを編集するなど活動は多岐にわたる。生徒は自主的に展覧会を立ち上げ、その活動も高く評価されている。2019年瀬戸内国際芸術祭でドットアーキテクトと共同展示した「北浜の小さなギャラリー」が記憶に新しい。

同展は、展覧会場外の窓の外に偶然巣作りをしていたキジバトの様子にインスピレーションを受け、作家一人一人が木造建築の空間と、キジバトの巣からのイメージを広げて作品にしている。キジバトの巣作りは雄が100m以上離れた場所との間を往復して枝を探し、雌

はその枝を受けとって粗雑な巣を作る。人間からすると雑に見えるが、キジバトにとっては彼らなりの合理性や意味があるのかもしれない。自分にとっては意味のあることでも他人にとっては意味が見出せないということも多い「美術」について作家自身が少しでも思いが届くようにと素敵な枝と表現する各作品を展開している。

